

博物館だより



No.171

令和3年2月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館「おススメの逸品レポート」
この展示（&収蔵資料）
「コ」が見てみる、コがツボ!!

「コ」なのであってもなくても博物館の魅力は収蔵資料が持つ多彩な価値と情報です。当館には町の豊かな歴史と文化が育んだ沢山の「逸品」資料があり、以下にその一部をご紹介します。



▲本書は「告示控綴」というべき書類で豊津藩時代を含めた多数の「お触れ」が綴り込まれている



▲右：論文の一部 外国人…の記事がある（点線）
左：噂は「人々を惑わし憐むべきこと」と記す

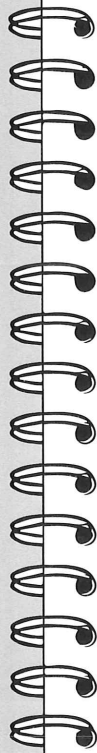
●資料名
豊津県庁論文（さとしがみ）控
*川原文庫八五郎制から抜粋
*原資料は育徳館高校総務課同窓会所蔵 本館寄託

●データファイル
法量等：縦22*横166*厚30(mm)
制作年代：明治四二(八七)年九月
ポイント：外国人の豊津入りをめぐって人々の間に非常な困惑のあったことが分る

●公開状況：保存のため通常非公開

●資料解説&メモ
あまり知られていませんが、今年（八七）は「豊津県」発足一五〇年のメモリアルイヤーです。地味な話題のため盛上りに欠けますが、みやこ町域に「本物のみやこ（ローカルみやこ）県庁ですが…」があつた最後の年となります。

その豊津県ですが、発足四か月後に解消、小倉県を経て現在の福岡県へと引き継がれたため、自治体としての活動歴は極めて短く、関連資料はあまり残されていません。僅かに残る資料の一つが本書ですが、その内容は現在の「告示」に当るもので、当時の世相を物語る貴重なものとなっています。



具体的には県立校・育徳館の英語教師にオランダ人ファン・カステルが着任するにあたり、豊津県下にさまざまな風評が立ち、見過せないと考えた県当局が「惑わされるな!」といった旨の告示文（お触れ）を貼り出したのですが、その控となるものです。大意は「外国人が生血を取るなど申す者があるが左様なことは断じてない。外国人招致は新文明享受のための朝廷の恩召であり、これを惑わすものは罪に問う!」と住民を叱咤するもので、時代色がよく表れています。

豊津県初仕事の一つは外国人アレルギー対策だったようです。

◆講座・教室・催し物ガイド
2月の歴史講座

「古文書講座」
2月13日（土） 10時
「古典かな講座」
2月20日（土） 9時30分
「みやこ学講座」
2月27日（土） 10時

※日程等変更となる場合があります。
※見学大等は別途通知します。

博物館で「楽習」始めませんか?

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか? 詳しくは博物館へお問合せ下さい!

①歴史講座（4教室開設）
館や町内外の文化遺産を題材に、町の歴史と文化を学びます。

②博物館友の会
バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

③文化遺産ボランティア養成講座
町の宝をガイド&ガイドするスタッフを募集・養成する講座です。

今からでも大丈夫!

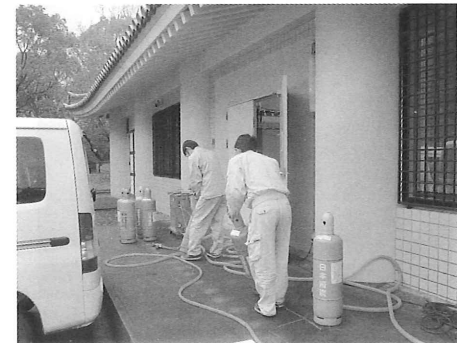


▲ボランティア講座での座学の様子 活動は大きく「ガイド」「ガード」「ワーク」の三種でバラエティに富みます

12月の業務日誌から

12月25日（金）みやこ観光まちづくり協会のマウンテンバイク貸し出しに伴うモデルコースの設定に同行して、各史跡のガイドを行いました。「自転車視点」による新たな史跡の魅力を発見した一日となりました。

12月24日（木）から5日間、博物館を臨時休館して館内燻蒸作業を行いました。収蔵資料を虫やカビの害から守るため欠かせない作業で、毎年この時期に行っています。28日（月）に成果を確認し、作業は無事終了しました。



▲作業では館の奥深くに入り込む虫等を薬剤で除去します

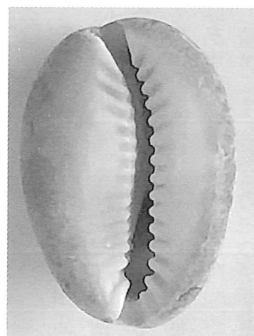


▲寒さを忘れ次の目的地を検討中（勝山の池田遺跡にて）

みやこの歴史発見伝 134
 令和とその時代 15
 お金の歴史

今年も、確定申告の時期を迎えました。日本の納税制度が整備されたのも「令和」の歌が詠まれた奈良時代で、中国の納税制度を基に導入され、以後、1300年の間、様々な改定を経て現在に至っています。この時代の代表的な税としては、租(土地税、初で納入)、庸(労役、米・布で代用も可)、調(布や特産品)などがみられます。奈良の都・平城京から「豊前国仲津郡調短綿臺伯屯四両天平三年」の荷札木簡が出土していることから、天平3年(731)に仲津郡(現在のみやこ町豊津、犀川周辺地域)で収穫された綿(真綿)が奈良に納付されたことが伺え、この当時、みやこ町周辺では、米以外に綿が重要な納税品であったことが分かります。このように初期の納税は「物納」が主でしたが、現在、租税は、通貨を基に算定を行います。モノやサービスの対価として用いられる「お金」のことを「通貨」や「貨幣」と呼び、現在、世界各国でも紙幣や硬貨が用いられています。この流通貨

幣がはじめて製作されたのも奈良時代です。今回は、私たちの生活の中で最も身近な「お金の歴史」をご紹介します。



「貝貨」として用いられた貝

お金の起源は「貝」?

古来より、食料や道具など、欲しいモノがあれば、その価値に相当するものと交換する「物々交換」によって一定の「取引」が成立しました。しかし、人や季節等によってモノの価値が変わるため、比較的手段が困難で、且つ携帯に優れた「モノ」に一定の価値を与え、様々な「交換レート」を共有したものが通貨のはじまりとみられています。約3500年前の中国では、南海産の珍しい貝を貨幣とした「貝貨」が用いられており、納税にも用いられていたことが伺えます。現在、使用されている「買」、「財」、「貯」など「お金」に関する漢字を構成する「貝」の部首にその名残をみることが出来ます。その後、中国では刀の形をした、「刀銭」など独特な形をした青銅製の貨幣が製造されています。

最新・最古の貨幣

新元号「令和」が発表された4日後、新紙幣の発行が2024年に予定されていることが発表されました。また3種の紙幣に先行する形で、今年、新しい500円貨幣の発行が予定されています。

歴史上、国内最古の鑄造貨幣は7世紀頃につくられた「無文銀銭」とよばれる「まじない」に使用された(銀貨)とみられています。国が発行した最古の鑄造貨幣は、「富本銭」とよばれる銅銭で、唐(中国)が621年に発行した「開元通宝」をモデルにしたものです。東アジアでは、唐に次ぐ鑄造貨幣として注目され、唐という強大な国家を目標とした国造りのシンボルとしてこの貨幣が鑄造されたことが伺えます。

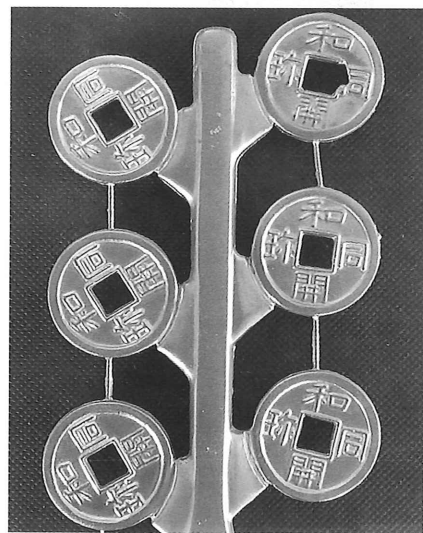
また豊前国分寺跡(みやこ町国分)の発掘調査では、この開元通宝が出土しています。その後、慶雲5年(708)に武蔵国で多量の銅が発見されたことに伴い年号を和銅と改めました。これを記念して製造されたのが教科書等でおなじみの「和同開珎」です。しかし、当時の一般の人々にお金の

使用方法が浸透しなかつたため、銭による納税や役人の給料支給などの奨励策を講じています。

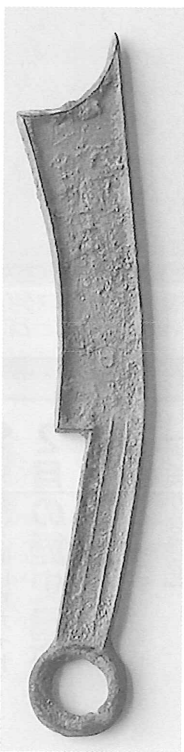
1300年にわたる偽造との闘い

出現期の貨幣は鑄造が単純なものであったため偽造が多発し、以後1300年、新貨幣の発行の度に、新たな「偽造対策」が講じられます。現在も偽造防止の観点から約20年ごとに紙幣の刷新に取り組んでいます。日本の偽造防止技術は世界でもトップクラスであり、新しい500円貨幣も、「異形斜めギザ」という世界初となる偽造防止技術が施される予定です。

新型コロナウイルス感染防止策として、キャッシュレス決済への移行が推奨される昨今ですが、貨幣の偽造対策と同様にセキュリティ対策が問題視されています。1300年を経て、「お金の形」が貨幣



「和同開珎」鑄造製作模造品 (九州歴史資料館)



刀銭



銅銭(豊前国分寺跡出土)

から電子マネー等へと変化した現在もなお、当時と同じように「不正」と向き合わなければならない現状がみられます。今後、この問題を解決することができるような新しい技術が活かされた「令和のお金」に期待したいものです。

(井上信隆)